

「お釈迦様」

第3組 河野圓城寺 藤井 淳俊

春から新しい生活が始まった方々や、進級進学など懐かしく思われる方も見えるでしょうか。お寺の前が通学路になり、小学生中学生の元気な姿を見ながら家を出ています。最近ではこどもたちが安全に登校できるよう地元の方々が見守っている姿を色々な地域で見かけるようになりました。みなさん挨拶をしてくださります。とても良い光景だと感じます。

ところで四月は、お釈迦様が生誕された月です。お釈迦様は、全ての人間は生まれてから年老いて病気に苦しみ、死んでいく「生老病死」という人間の一生について悩み、出家され悟りを開かれた方です。お釈迦様は誕生された時、「天上天下唯我独尊」と話されました。ただ独り、わたしとして尊いということです。他のいのちは自分のいのちより価値が低いという事ではありません。自分のいのちだけが尊いという事でもありません。お釈迦様は、人間だけでなく、花や木などすべてのいのちが尊とく互いにつながっている存在だと説かれています。このつながりの中に人間として生まれ、このいのちのままに尊いという事です。

私たちは、普段たくさんの人と出あいます。また、最近ではデジタル化が進んでおり、ひとりひとりで使用できるSNSが普及しています。非常に便利でつい時間を忘れて画面を見てしまいます。しかし、地位や権力、財力や容姿など色々な自分のものさしによって人と比べ易い環境だと思います。「天上天下唯我独尊」とは、このようなものさしを取り除いて、そのままにして尊い存在であるという自分を照らし出す大切な言葉です。思い悩んだ時は、お釈迦様の言葉に耳

を傾けてみましょう。

様々な人と関わり、老いや病気に苦しみ、死んでいく私たちの人生の中で、お
釈迦様の言葉を聞き、その喜びを感じ生活していきたいものです。